



南部駒賞

2歳・ダート1600m M1

11月11日(火) 盛岡競馬場

昨年の優勝馬・パリウイール

JRA認定競走／(株)優駿協賛／河北新報杯

第52回 南部駒賞 (M1) (ワールドプレミア賞)

盛岡競馬場／2歳・地方競馬全国交流・ダート1600m

11月11日(火)第12競走 18:10発走

南部駒賞の前身である『南部駒賞典』は1973年創設。ひと足早く誕生していた『不来方賞典』などの特別競走の好評を受けて、この年『みちのく大賞典特別』と同時に新設されました。その最初の勝ち馬は旧3歳牝馬のカネシラン、当時の1着賞金は40万円でした。その後1975年に重賞競走に格上げ。2000年第28回からは東北3県交流、2004年からは地方競馬全国交流重賞となり、翌春の飛躍を目指す若駒達の登竜門的競走として歴史を積み重ねてきています。

■トゥーナガラリエ(牡2 盛岡・齋藤雄一厩舎)



今季最初の新馬戦でデビュー。その時はラブコラージェンの2着に終わったが、2戦目も2着、5戦目でも2着と初勝利は遠くないものと感じさせた。残念ながらその後は掲示板圏からも少し離れてしまっているが、ここまでキャリア12戦、うち重賞挑戦3度の経験値は活きているはず。これまで以上の強豪と戦う今回だが一步でも前へ。

「近走の着順がちょっと大きめですが状態の落ち込みはなく来ています。デビュー当初の勢いを取り戻したいですね。(齋藤雄一調教師)」

■ディオニス(牡2 水沢・佐々木由則厩舎)



5月のデビュー戦は盛岡ダート1000mで2着馬を10馬身引き離す圧勝。距離を1400mに伸ばした2戦目も4馬身差を付けて完勝して素質の高さを示した。重賞初挑戦の前走・ネクストスター盛岡では惜しくも2着に終わったが、勝ったラウダーティオをはじめ既に何度か重賞に出走した経験を持つ馬たちを相手にしてこの結果はむしろ本馬の力量の高さを示すものだったと言えるだろう。地元の雄として強力遠征勢を迎撃つ。

「直前の追い切りはややセーブ気味にしましたが、順調に来ているので状態面は問題ないでしょう。後は遠征馬との力関係ですね。（佐々木由則調教師）」

■アラモ(牡2 門別・田中淳司厩舎)



提供:ホッカイドウ競馬

6月26日の新馬戦は2着に終わったもののひと息入れて仕切り直した2戦目を快勝。そこからは未勝利認定、上級認定とポンポンと駆け上がって3連勝を挙げた。勝ち星を連ね始めたのが8月で地元の重賞路線には出走していないが上級認定の上位常連クラスを問題なく破ってきており、現時点でも既に重賞上位クラスの力量は備えていると見ていいだろう。本馬の全姉ハーフブルーは門別デビューから南関東に転じて今年の優駿スプリントを制した。弟もそれに続く重賞Vを狙う。

「現時点ではまだ身体ができ切っていないくて、本当に良くなるのは来年以降かなと思うのですが、ここに来て身体もしっかりしてきました。上とは体型も違っていて距離延長もこなしてくれると期待しています。（田中淳司調教師）」

■ジェイエルビット(牡2 水沢・佐々木由則厩舎)



ここまで6戦3勝、重賞を含めて掲示板を外していない堅実な戦績を残す。同厩のセイクリスティーナが素晴らしい成績を挙げているためにちょっと目立たないが、陣営内での本馬の評価はその同厩のライバルと比べても負けず劣らずの高いものがある。そして本馬はマイルを二度経験済み、特に盛岡マイルで勝っているのがここでの大きな武器にもなるはずだ。地元勢の一番手の気概をもって迎撃つ。

「こちらも中間は順調。大柄で器用ではないところがあり、それがここでどうか？ですが、距離を経験しているのは強みでしょう。（佐々木由則調教師）」

■ポリッキー(牡2 門別・角川秀樹厩舎)



提供:ホッカイドウ競馬

7月デビューは出走メンバーの中でも一番遅かったが、その新馬戦を5馬身差で勝ち上がっているのだから地力は高い。その後の二戦は距離を伸ばして6着・7着と敗れたが「結果としては馬の身体がまだしっかりしていなくてコーナー4つの競馬に対応できなかったのでしょう」と角川調教師は振り返る。「新馬戦でもちょっと余裕があるかなと感じる身体で強い競馬を見せてくれた。この先の期待は高い馬です」とも。4戦目での重賞初挑戦だが素質と伸び代に期待する手は「あり」だろう。

「若干太めの身体で来ているので間隔を詰めるのは決して悪くないでしょう。ここ二戦はやや苦戦ですがこれも距離経験を積むことができたと判断しています。(角川秀樹調教師)」

■トーアサジタリウス(牡2 門別・佐々木国明厩舎)



6月の新馬戦を1番人気で快勝。JRA札幌のクローバー賞に遠征して2着確保、札幌2歳Sにも駒を進めてみせた。地元に戻って挑んだネクストスター門別では11着に終わったが掲示板争いは大激戦だった一戦、距離もこの馬にはやや短く、着順の数字はあまり気にしなくていいだろう。「背中が良くて乗り味がすごく良い馬。付くべき所に肉が付けばもっと良くなると楽しみにしているんです」と佐々木国明調教師。初めての盛岡遠征もさらなる成長の糧に。

「今回の遠征の決め手になったのは盛岡の方が砂が軽いだろうという点。芝ダ兼用のイメージがあるのでより軽い砂の方がこの馬には良いでしょう。(佐々木国明調教師)」

■ドライブミーホーム(牡2 門別・森山雄大厩舎)



デビューは6月、新馬戦こそ2着に終わったが返す刀の2戦目で未勝利戦を勝つと4戦目には待望の認定勝利を獲得。世代上位クラスに挑むようになった近走は、前走のネクストスター門別では7着、二走前の上級認定では5着だが、その二走前の2着馬は先のプリンセスカップを勝ったトリップスだったように上位は重賞勝ち負けクラスが連なっていたし、前走も大激戦の中で1秒差なら後は運と言える内容。ここで勝つ力は十分にあるはずだ。

「認定を勝つまでは詰め気味の間隔で来ましたがその後は月イチくらいに。今回も同様の間隔なので問題はないでしょう。距離もワンターンなら対応してくれると思っています。(森山雄大調教師)」

■キララカ(牡2 水沢・菅原勲厩舎)



自身二度目の重賞挑戦だった前走・ネクストスター盛岡では7着。とはいえる3着争いからは大きな差は無く、現時点での力は發揮していたと評価できるだろう。前走時にも触れたがどうしても自力で動き切れず展開待ちの部分がある馬。一方で流れが向きさえすれば距離やコースは問わない面もある。とすれば遠征勢が加わって流れが速くなるだろう今回はこの馬向きの展開も期待できる。末脚のエンジンをしっかりとかけるにもマイルという距離はおあつらえ向き。

「状態は変わりなく順調。ちょっとエンジンの掛かりが遅いので展開次第の面がありますが。それだけに距離はこれくらいの方が良いでしょう。（菅原勲調教師）」

■トウナスタディ(牡2 盛岡・斎藤雄一厩舎)



「ダートでどれだけやれるか」を課題として挑んだネクストスター盛岡は勝ったラウダーティオから1.5秒差の8着。着順からの評価は正直微妙なところだが、ダートで、正攻法で立ち向かった結果だと思えば、ダートにも一定のメドは立った結果だったと言えるのではないか。その前走は高速決着の流れが速い1400mが合わなかった印象もあった。芝では成績が安定していたマイルで改めて力量を証明する一戦に。

「重賞挑戦と遠征とが続きましたがここに来ても状態に変わりはない。距離も問題ないと思いますがやはり芝の方がより良い印象ですね。（斎藤雄一調教師）」

■レヴェルトディオ(牡2 門別・田中淳司厩舎)



デビューからの通算成績は5戦1勝2着3回。そう並べると“勝ち味に遅い馬”かと感じるが、しかしデビュー戦でゴール寸前まで競り合った相手はのちに兵庫に移籍して重賞2勝を挙げているエイシンイワハシル、その馬とタイム差無しの2着だったと言えば本馬の力量の高さがうかがえるというものだ。そして鞍上の吉原寛人騎手は地方競馬での重賞勝ちを199勝として200勝にあとひとつ迫る。人馬にとって嬉しいタイトルをここで決めたい。

「まだ荒削りなんですが素質は高いと評価している馬。ただ、内枠にあたったり不利があつたりとレースで力を出し切れていない。それを出し切れればと思っています（田中淳司調教師）」

■ティーズアライト(牡2 門別・小野望厩舎)



デビューは1700mの新馬戦だったがこれは「力がある馬だと思っていたんだけど馬に気がなくて（小野調教師）」で短距離ではなく長めの距離を選択したもの。2戦目の未勝利認定を9馬身差で圧勝した後もなかなかつかみ所がない成績だったが、ここに来て大きく変わってきた印象がある。重賞挑戦はまだ一度だが重賞級の強豪とは何度も戦って来ている。距離経験の豊富さも計算に入れれば、ここでタイトル獲得も決して遠くはない存在。

「二走前にブリンカーを付けて1000m戦を使ったのが功を奏して走りが変わってきた。元々力はあると思っていた馬。前走のような競馬ができるならここでも、と思っています。（小野望調教師）」

文・写真／横川典視

写真提供／ホッカイドウ競馬